ともしび

仏縁に照らされて

井上直之（釋直道）

今年の一月十八日、古河市を中心に、一万八千世帯が雪の影響で停電しました。特に、私の住んでいる町内はなかなか復旧せず、朝から暖房器具はもちろん、お風呂も使えない状況でした。

仕方なく、私は生後七ヶ月の娘を布団に入れたまま一緒にいました。パソコンが使えず、築地本願寺の仕事ができない私。洗濯ができない妻。

しかし、身動きがとれない状況に苛立つ私たちとは対照的に、娘彩弥（さや）は機嫌が良いのです。

その時私は思いました。「そうか、こんな近くでパパとママがずっと一緒にいてくれることなんてなかったものな」と。

本当はその日、仏教讃歌の指導をして築地本願寺からいただいた謝礼を持って、娘にかわいい服を買ってあげたいと出かける予定でした。でも、彩弥からみれば、そんなことどうでもよいことだったのだなと、気づかされました。

アップルの創始者スティーブ・ジョブズは、亡くなる前、最後にこんな言葉を残しました。全部は書ききれないので、一部ここに写させていただきます。

私がずっとプライドを持っていたこと、認証（認められること）や富は、迫る死を前にして色あせていき、何も意味をなさなくなっている。

今やっと理解したことがある。私が勝ちえた富は、死ぬ時に一緒に持っていけるものではない。私が持っていける物は、愛情にあふれた思い出だけだ。

これこそが本当の豊かさであり、あなたとずっと一緒にいてくれるもの、あなたに力をあたえてくれるもの、あなたの道を照らしてくれるものだ。

名声、お金など欲しいものを手に入れても、私たちには寿命というものがあり、いざという時、それらは何もなさないのです。

大切なのは、私が私の幸せに気づいていける人生に出会えることではないのかな、と私は感じております。

しかし、この世は誰かが出世すれば誰かは出世できない、スポーツの世界だって一位がいればビリもいる、容姿だって頭脳だって健康だって収入だって、平等ではないのです。

この弱肉強食の競争社会に生きている私たちは、正直、阿弥陀さまに毎日感謝することすら忘れがちです。

でも、そんな自分の力だけでは救われない私たちだからこそ、お浄土からたくさんの仏さまが「必ずあなたを救うぞ」といつも光を届けてくださっているのです。たとえ私たちが気づかなくとも。

私たちの祖先や、このお寺に関わるすべてのお浄土の仏さまのための法要が永代経です。親鸞聖人は、亡き方々のことを諸仏と表現されています。

永代経とは、日々の生活に追われている私たちの心を、一度リセットし、仏縁に感謝させていただく大切な法要なのではないのかな、と思います。

今年も、本堂いっぱいのご門徒さんと一緒に「阿弥陀経」のお勤めができることを大変嬉しく思います。

伝灯奉告法要 団体参拝のご案内

今年の十月一日からご本山で修行される伝灯奉告法要、茨城西組の団体参拝について、詳細が決まりましたので、お知らせいたします。

私たちの参拝は、平成二十九年の五月になります。

宗願寺からは三十名（先着）の参加を予定しております。お寺までご連絡ください。

5月10日（水）
西本願寺にて伝灯奉告法要参拝、門前町散策
京都東急ホテル（宴会、宿泊）

5月11日（木）
東尋坊（昼食）、吉崎御坊他
山代温泉・ゆのくに天祥（宴会、宿泊）

5月12日（金）
金沢別院参拝、兼六園、兼見御亭（昼食）、近江町市場他
旅行代金は八万五千円

新幹線と大型バスを利用します。宴会は椅子テーブルで、長時間座ることはありません。

茨城西組連続研修会

四月十二日（火）、宗願寺で茨城西組の連続研修会が開催されます。

組内のお寺を順番に会所として、浄土真宗について学び、語り合い、十二回で卒業となります。

常にお参りをしていても、間違った知識で仏さまと向き合っていることもあります。学んでみませんか。難しいことはありませんので、ご参加ください。

参加希望者はお寺まで。

お知らせ

茨城西組連続研修会
4月12日（火）午前10時

宗祖降誕会
4月29日（金）午前10時

花まつり（子ども会）
5月5日（木）正午

大乗院釈弘三法師祥月法要
6月12日（日）午前11時

あじさい忌
6月23日（木）午前11時

全戦没者追悼法要
8月15日（月）午後6時

恵信尼公法要と敬老会
9月16日（金）午前11時

多田等観師の南無阿弥陀仏

井上　妙澄

宗願寺の境内に一歩入りますと、右手には「親鸞聖人御旧蹟」の碑があり、参道の登り口左手には「南無阿弥陀仏」の碑があります。

御旧蹟の文字は井上琢爲師の筆跡で、南無阿弥陀仏は多田等観師の筆跡です。

晩年の等観師（上）

南無阿弥陀仏の碑（左）

秋田の土崎港・西船寺の三男として生まれた多田等観師は、明治末から大正にかけてチベットに入り、当時のダライ・ラマ十三世の命を受け、チベット仏教を修行されました。

十年以上の滞在を経て、二万四千部余りの貴重な文献とともに帰国されました。その後、チベット大蔵経の翻訳に専念され、後に東北大学内に研究室を置き、学生たちの育成に力を入れ、日本学士院賞を受賞されました。

ダライ・ラマのもと、ラマ僧として修行された等観師ですが、幼い時から南無阿弥陀仏の中で育った人でした。

井上家の琢爲師とは、父方の従兄になります。

琢爲師亡き後、宗願寺へ度々泊まりがけでお詣りされて、私たちにチベットの面白い話を聞かせてくださいました。

そして、何をさておいても、大切なのは、南無阿弥陀仏の六字をお称えすることと、念仏第一の生活を忘れないようにと、私も常に教えていただいたものです。

私が東京仏教学院に入学、卒業のおり法名を受けることになった時、等観師が「妙澄」と名付け親になってくださいました。

宗願寺の七百回大遠忌を勤めた前年、昭和四十二年二月十八日に往生されました。

本堂裏手の墓地に「仏子等観の墓」とありますのは、等観師の奥方菊枝夫人の筆によるものです。

仏教壮年会
第2土曜日・午後6時
仏教婦人会
16日・午後1時
編物教室
第2・第4火曜日　午前10時
新樹会（女声コーラス）練習
第2・第4火曜日　午後2時

美味しいお話など

井上由真

毎年二月四日は、婦人会の「立春拝賀式」が勤まります。女性だけの集まりで「女正月」とも呼んでいます。その日は朝から様々なお料理を作ります。

手作りシフォンケーキ

いちばんのご馳走は「クルミ寿司」です。境内のクルミで作った飴煮を中心に、紅ショウガと椎茸の旨煮の千切り、の三種類の具が入った太めの海苔巻です。それを三切れと、彩にはホウレン草と柚子と鰹節の入った海苔巻を一切れ、青シソで区切って、いなりずしが二個、美しいお寿司の詰め合わせが完成です。

もうひとつのご馳走は「レンコンのはさみ揚げ」です。薄切りのレンコンに味噌とショウガで味付けした豚のひき肉をはさみ、片栗粉をまぶして揚げたものです。

今年は、ごぼうの唐揚げや椎茸のてんぷら、かぼちゃとさつまいもの甘い煮物、ポテトサラダには手作りのローストチキンとミニトマトを飾りました。青味はブロッコリーだったと思います。宗願寺名物の椎茸昆布も煮て、他にも煮物が入りました。それがご馳走の詰め合わせです。

お椀もうどんが少し入って、三つ葉やネギやキノコが香る美味しいものです。

鴨と、お寺のギンナンが入った茶わん蒸しも作りました。

デザートは苺と生クリームを飾ったシフォンケーキとフルーツ寒天、お土産にお持ち帰りされた方が多かったようです。

朝は忙しいのですが、お勤めの後はお酒を少しいただきながら楽しい時間を過ごしました。ビンゴゲームも盛り上がりました。

笑顔溢れる集いですが、お顔を見ていると、どなたも悲しい経験をお持ちです。お寺とは、そういう場所なのだと、しみじみ考えていました。

お寺は楽しくありたいと思います。楽しい中で、本当のことに気づき、お念仏を喜ぶ私を育てることが何より大切です。

新門主・釋専如さまのこと

いよいよこの秋から、ご本山では伝灯奉告法要が修行されます。

新しく門主となられた釋専如さまは、五年前の三月二日、ここ宗願寺を参拝されました。ここ宗願寺を参拝されました。茨城西組の僧侶、寺族と親しく語り合い、私たちの悩みを聞いてくださいました。母に優しく言葉をかけてくださったことなど、懐かしく思い出されます。

そして、その後十日足らずで、あの恐ろしい東日本大震災がおこったのです。

五年前の三月のことは、当時の「新門さま」とともに、鮮明な記憶として私の心に残っています。

編集後記

今年は、御供物に小布施の栗落雁を用意しました。美味しいものですが、小布施の名産であることに意味があります。

宗願寺の開基・西念坊は小布施の出身と聞いています。宗願寺略縁起は、西念坊の俗姓を、信州小布施の城主井上五郎盛長の次男次郎道佑と伝えています。

今回、母には懐かしい「等観さん」についての文章を綴ってもらいました。もう頭が動かない、と申しますが、リハビリになると思い、頼んでみました。

永代経が近くなると、家族や友人、今は亡き方々を思います。

皆、懐かしいお浄土から見守ってくださっています。私も将来そのような仏になれることを信じています。

住職夫妻やその赤ちゃんを見ていると、ますます思いが強くなり、温かな感情に満たされます。

合掌

毎年、報恩講と永代経は、準備に時間をかけ、皆さまに喜んでいただけるよう工夫をしております。

発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真（由美子）
カット・大建弘子
（印刷所・阿部印刷）